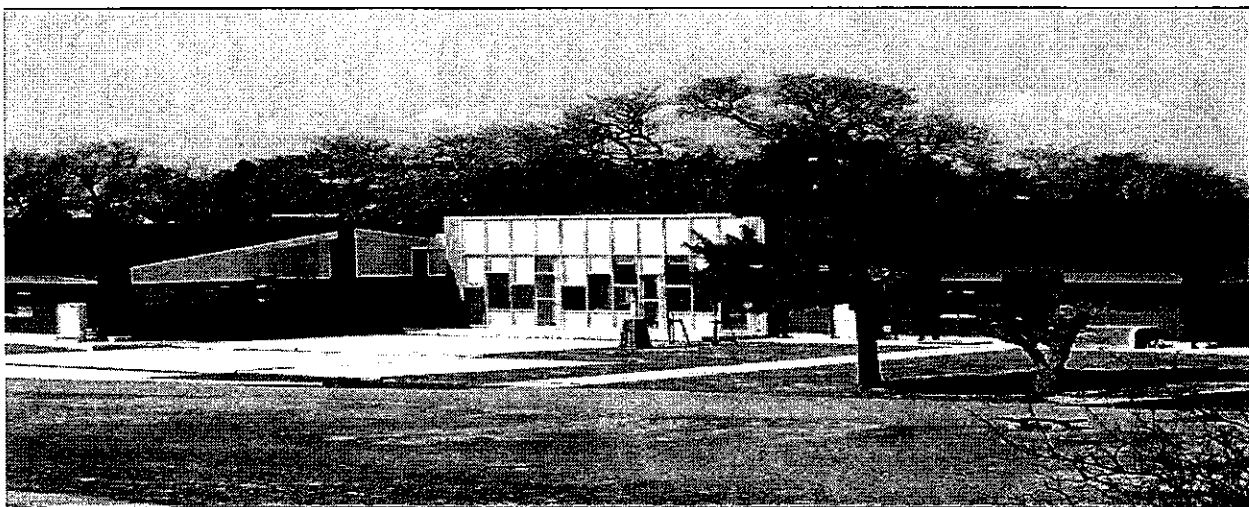


松 風

令和3年11月19日発行
発行 富山県立富山学園



富山学園の新しい風景

園長 米沢 由佳子

四月から、再び園長として、富山学園で勤務することになりました。自然豊かな学園で、元気な子どもたちとの生活は、四季折々、いろいろなことがあり、相変わらず毎日とても新鮮です。

四月二十三日に新しい寮舎の竣工式を行いました。築五十年を超えた寮舎、食堂、浴室を取り壊し、全面改築となりました。

四年前に改築の基本設計に携わっていました。これからの子どもたちの生活をどのようにしていくのかいろいろ考えながら、イメージを膨らませていました。その時、図面で考えていたものが、今、完成した姿で目の前にあるのは、ちょっと感慨深いものがあります。

寮舎が新しくなり、子どもたちの生活は以前とは変わりました。建物によって変わったところもありますが、それぞれの子どもたちの二歩を踏まえて、寮での生活のあり方を職員がいろいろ考えて変わってきていることも多いように思

います。

児童自立支援施設には小舎夫婦制で家庭的養育を行ってきた歴史があります。当学園でも、前の寮舎になるまでは、小舎夫婦制での支援を行っていました。前の寮舎の開所と合わせて、大舎での交代制勤務となり、五十年あまり、その体制で支援を行ってきました。

現在、社会的養護において家庭的養護が重要視されています。この度の改築により、寮舎はコンパクトになりました。それぞれの子どもたちの成長にとって必要な養育は何かを考え、交代制勤務ではありませんが、家庭での生活を意識した支援をどのように行えるのか模索しています。

一方で、子どもたちはそれぞれの課題を抱えており、枠のある生活の中でその課題の整理をするために学園に入所しています。個別の自立支援をどのように行っていくのか、子どもたちと一緒に活動しながら、日々悩んでいます。

富山学園の新しい風景の中で、子どもたちと共に子どもたちの未来に向けて新しい学園生活を作っていきたいと思っています。

竣工式

四月に女子寮が完成し四月二十三日に「富山学園寮舎竣工式」を行うことができました。

新寮舎は「子供心に寄り添う、子供たちが楽しく暮らせるぬくもりのある住まい空間」をコンセプトに設計、施工されました。



新しい寮舎は明るく、暖かい印象を受けます。「家庭らしい温かみのある生活」に少しでも近づけるように職員も色々なアイデアを出しながら子どもたちと共に過ごしていきます。

晴れた日にランチルームから見える立山は雄大で感動的です。

新寮舎完成のお祝いに男子児童は立山の前で毎年、生活学習発表会で披露している「越中おわら節」を披露しました。少ない練習時間の中で堂々と楽しそうに踊れたのではないかと思います。



最近の入所児童は低年齢化してきており、現在の入所児童の約半分は小学生となっております。新しい寮舎の良さを活用し子どもにより良い支援ができるようにしていきたいと考えています。

新寮舎の完成に関係していただいた皆様に改めて感謝いたします。

(松波)

観桜会

四月八日、恒例の観桜会が開催されました。桜が散ってしまうのでは？と心配をしていましたが、咲き誇る桜を遠目に見つつ、コロナ感染対策をしながら外での開催となりました。職員や分校の先生方に協力をいただきながら、焼肉や焼きそば、おにぎりなどをたくさんいただきました。澄み渡る青空の下、みんなの笑顔がたくさん咲いた楽しい食事となりました。



食事の後は、今年一年の抱負を発表しました。野球大会やマラソンなどスポーツのこと、勉強のこと、そして生活のこと、児童それぞれの目標を持って学園生活を送ろうという決意を見せてもらいました。

その後は、ソフトボールの交歓試合が行われ、大人も子どもも全力でボールを追いかけ、声を掛け合い、とても充実した時間を過ごすことができました。(木下)

富山学園農場

コロナ禍ではありますが、本年度は、作業指導において、新たな挑戦を始めました。

園内の遊休地を活用し、果樹園、ハーブ園、コミュニティ広場を造設する作業を実施しています。石拾い、草取り、掘り起こし、土壌作りなど、様々な作業を夏頃から開始し、作業を継続しています。

作業では、「自分たちの生活環境は自分たちで守り、より豊かにしていく」というコンセプトを大切にしています。より子どもたちに主体性を持たせるため、今回の作業の進捗状況を踏まえ、翌日の作業方針、作業内容を子どもたちにも考えてもらうようにしました。

子どもたちは新しい作業に意欲的に、かつ主体的に取り組む姿が見られました。完成が楽しみです。



農場作業も例年どおり力を入れてきました。

収穫した野菜は、自分たちで調理したり、厨房に提供して食事に使っていたりしています。

また、昨年度からは学園職員や分校職員に購入してもらい、その収益を子どもたちの余暇充実に活用しています。収益金は、男子寮と女子寮に分配し、子どもたちがみんなで話し合い、使い道を決めて、余暇に必要な物を購入しています。

植え付けから手入れ、収穫、片付けまで、一連の作業を経験することは勿論、収穫した野菜をいただき、更には収益を上げてそれを自分たちの生活に活かすところまで取り組む。単なる作業指導に留まらず、食育、勤労意欲の醸成、社会性の向上といった様々な効果

を期待し、農場作業、作業指導はこれからも飽くなき挑戦を続けます。

(嶋田)



野球

昨年度は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、全国大会、北越大会が中止になり悔しい思いをした子どもも多かったです。今年こそは、と職員・子どもと気持ちを新たに四月から野球日課がスタートしました。

プレッシャーに弱いキャプテン、個人成績を気にするエース、無難なプレーをする経験者、小さくまとまった中学生、お子様小学生軍団・・・さて、どうしたらよいかと頭を悩ませていましたが、毎日の練習で汗を流し、声を出し、グラウンドを走り回っている内に

少しずつ、チームとしてまとまってきました。

残念ながら両大会とも中止。今年も子どもたちに大会中止を伝えるのかと、憂鬱な思いに駆られました。子どもたちは強かったです。野球を通して生活をよりよくすること、強くなること、自身の成長を楽しむことを目標に中止を伝えた日以降も毎日野球をやりました。

対外試合は出来ませんでした。職員戦やOB・児相職員戦を週一回のペースで行い、練習の成果を発揮しました。初めは一点も取れない試合や気持ち折れて大量得点を奪われる試合もありましたが、試合後の練習で課題を見直し、コツコツと練習し、緊迫した一点差ゲームや試合に勝つことも出来るチームになりました。

最後まで協力してくれた学園の先生方、分校の先生方、OB・児相・外部職員の皆さま、感謝の言葉しかありません。ありがとうございました。

大会はなくても八月まで野球をやりきった子どもたちを誇りに思います。(小泉)



カターレ観戦

カターレ富山様からのご招待をいただき、六月十三日(日)にサッカーJ3のカターレ富山対ロアッソ熊本戦を観戦させていただきました。富山県総合運動公園陸上競技場にて行われた試合には多くのサポーターの方も観戦しておられ、競技場の熱気や雰囲気を感じながら、ダイナミックなプレーに興奮し観戦しました。子どもは学園でのスポーツ活動としてサッカーをすることはありませんが、迫力のあるプロスポーツを生で観戦することで、日々のスポーツ活動の刺激になるとともに、スポーツ

の素晴らしさも感じてくれたこと
と思います。

競技場外では、「働く車」の乗車
体験があり、小学生児童を中心に
楽しませていただきました。スポ
ーツ観戦のみならず有意義な社会
体験となりました。何より、子ど
もがスポーツ観戦を楽しみにして
おり、観戦後に「楽しかった」等
のポジティブな感想が児童から聞
かれたことが良かったと感じてい
ます。帰路の車中で小学生が疲れ
て寝てしまいました。十分に楽し
めて満足したような寝顔がとても
印象的でした。こういった機会を
通じて、子ども達がたくましく豊
かに育ってくれたらと思っております。
子どもの成長と一緒に歩んでいき
たいなと改めて感じました。今回
のご招待誠にありがとうございました。
(稲垣)



夏期日課

夏期日課は、学園の一年の活動
の中でも子どもたちにとって厳し
い活動の期間となります。夏の暑
い中、作業、スポーツをこれでも
かというくらいやります。

今年度の夏期日課の男子寮の作
業は、例年の園内の環境整備(草
むしり、農場整備、草集め)も行
いながら、寮舎改築で空いた敷地
を整備する作業を行いました。具
体的には、そのスペースにハーブ
園、コミュニティ広場、果樹園を
整備しました。子どもたちにグル
ープ毎に担当力を割り当て、完
成までの作業工程も事前に説明し、
担当した職員と相談しながら工程
を順次クリアしていき、完成させ
る方法で行いました。

これまでと違う点は、まずは次
の日のやることを子どもたちが理
解して、当日の朝の作業時間
の開始とともに自分たちが必要な
工具を準備して動き出すことがで
きることです。その日その日の作
業を当日の朝のミーティングの時
に子どもたちに伝えて動き出すの
がこれまでのやり方でしたが、子
どもたちが自分たちで考え、自主

的に作業に取り組むことに挑戦し
ました。

もう一つは自分たちで生活する
学園のスペースを新しく作り上げ
ることです。

職員も子どもたちも手探りで始
めた活動でしたが、結果的には何
かを作り上げる喜びを感じ、作り
上っていく過程を感じることで意
欲が沸き作業に自主的に、前向き
に取り組んでいたように感じます。
完成したハーブ園にはハーブも
植わり、根を生やし今後が楽しみ
です。コミュニティ広場は、大き
な紅葉の木の下にブロックを敷き
詰め、ベンチを置き、子どもたち
が集ったり、職員と子どもがベン
チに座り話をしたりすることがで
きるようになっていきます。また果
樹園にはこの冬に栗や柿、梅、ビ
ワを植えます。果実を収穫するに
はだいたい先の話にはなりますが果
樹の成長を子どもたちと見守って
いきたいと思っています。

寮舎も新しくなり、一年半が経
過します。新しい寮での生活も落
ち着いてきて、寮舎の周りも少し
ずつ整備できてきている状況です。
これからも新しい寮舎、まわり
の環境を使いながら新しい活動に

挑戦していきたくて考えています。
(井澤)



夏祭り

八月二十四日、毎年恒例となつ
た夏祭りを開催しました。夏とい
えば田舎のバーベキューコンロに
火起こしをして、お肉や焼きそば
を焼いたり、お祭り屋台定番のた
こ焼きを作ったり、学園の農場で
とれたトマトのスープやかぼちゃ
のプリン、冷たいジュースやか
き氷と、おなかいっぱい夏を味
わいました。

午後は分校の先生方の熱のこも
ったお化け屋敷!毎年パワーアッ
プして、中学生や大人も楽し
める工夫が凝らされています。小
学生たちは入口に入る前から恐れ

戦き涙する子も。全身で恐怖を楽
しみました。
(荒川)



【子どもたちの感想】

先生やみんなと一緒に食べるこ
とで、もつとおいしく感じました。
お化け屋敷は、自分が入る前に
小学生が泣いていたのでとても緊
張しました。怖いのは平気だった
けど、とても楽しかったです。

(N・S)

お化けがいて怖かったけど、先生
たちだとわかってほっとしました。
(R・K)



登山

十月二十七日、大辻山登山をして
きました。登りは二つのルートに
分かれ、中学生は沢登りにも挑戦
しました。標高一三二六メートル
の登山道は前日の雨もあり、ぬか
るんでいました。また、木の根が
張り出し高低差の大きい、なか
かに険しい道を全員で励まし合
いながら、お互いの安全に気をつけ
ながら登りました。

山頂では、雄大な立山の景色を
楽しみました。昼食には、その場
でお湯を沸かし、あつあつのカツ
プラーメンを食べました。いい景
色と登山の達成感で、ひと味違っ
たカッププラーメンだったようです。
(窪野)



【子どもの感想】

途中で足が濡れるのを覚悟しな
いと進めない道があった。水がす
ごく冷たかったけど、自然を感じ
られた。少し休憩をしてお菓子を
食べると、生きている事のありが
たさ、自分は幸せ者だと感じた。
山頂からの景色はびっくりする
くらい綺麗で、山の雪も町も、へ
リコプターも全部見えた。

自然をたくさん感じられたし、
自然の怖さもわかった。(M・M)



社会見学

今年の社会見学は、「温故知新、
富山の新旧文化や町づくりにつ
いて学ぼう」というテーマで、富山
市を巡りました。午前中は富山県
美術館や富山城を見学し、午後か
らは富山環水公園から岩瀬力ナル
会館まで富岩水上ラインをクルー
ズし、岩瀬の街並みを歩きました。

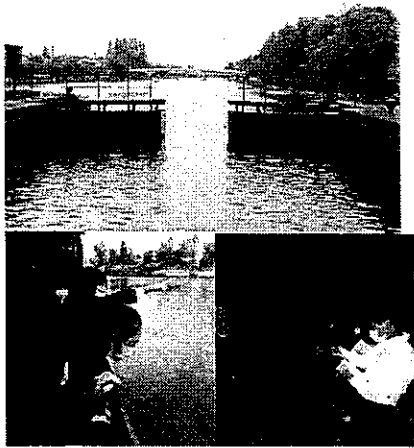
最初に訪れた富山県美術館では、
普段見ることがないユニークな作
品に出会い、アートやデザインを
みる楽しさを知ることができまし
た。特に企画展「東山魁夷・唐招
提寺御影堂障壁画展」では、東山
魁夷の貴重な障壁画やスケッチを
じっくり鑑賞することができまし
た。児童・生徒たちは、自分のお
気に入りの作品を見付け、忘れな
いようにメモしていました。富山
城では、富山市郷土博物館で中世
以来の富山城の歴史を学ぶことが
できました。天守閣に登り、殿様
のように富山市街を見渡すことが
でき、とてもよい体験ができてま
した。

昼食後は、みんなで船に乗り富
岩運河をクルーズしました。ガイ
ドさんの話を聞いて、富岩運河の
歴史や水辺の環境、中島閘門のし
くみについて知ることができまし
た。中島閘門では水のエレベータ
ー体験をしました。児童・生徒た
ちは水面の高低差が約2.5mも
あることに驚いていました。

最後に岩瀬の街並みを歩き、北
前船廻船問屋森家と馬場家を見学
し、話を聞きました。岩瀬の物流・
文化の歴史を知り、昔の暮らしの

ようすを味わうことができました。屋久杉の板戸や小豆島産の巨大な一枚岩など、贅を尽くした造りを見るのができました。どの体験も普段できないことばかりで、初めて知ることも多く、新鮮で学びの多い活動となりました。

(加治教諭)



海岸清掃

海岸清掃は、コロナの影響もあり、例年より一回目の開催が遅れ七月二十一日に、二回目は十月十一日に実施しました。

「無人ボックスの会」で活動を続けておられる地域の方々と一緒に、浜黒崎海岸のゴミ拾いを行いました。学園では、浜黒崎サイクリングロードをよくランニングしており、身近な海岸を美しくしよ

うと頑張りました。

会の方から、海洋プラスチックごみは世界で問題視されており、海を汚染するだけでなく、海に住む生き物にも影響を与えていると教えていただきました。流木が特に多く、何度もサイクリングロード沿いまで運びました。十月の時は、風の強い中でしたが、袋が飛ばされないように気を付けながらごみ集めをしました。

「社会奉仕の心を養う」目的で実施し、清掃後のきれいな海岸を見ると充実感があります。これからも日々身の回りがあることに気を配り、地域の皆さんと地域のために活動していければと思います。

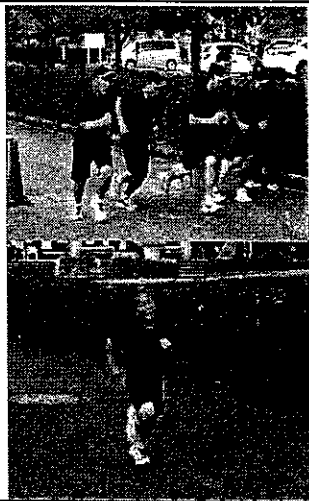
(木下)



陸上個人記録会

十月十五日に、立山町の常願寺川公園のランニングコースで陸上記録会を開催しました。中学生男子は六キロ、小学生男子と女子児

童は四キロのコースを走りました。野球日課が終了した八月末から本格的にランニングを始め、晴れた日には海岸沿いや学園内のトラックを走り、雨の日には体育館でクーパー走や基礎トレーニングを行い、日々体力づくりに励んできました。



記録会当日、初めて走るコースに不安と緊張で一杯の表情をしていましたが、スタートと同時に勢いよく駆け出し、自己ベストに近いタイムを出した子どももいました。一方で、常願寺川公園のランニングコースは長い直線が多いコースであること、また、初めて走るコースであったことから、自分のペースを掴めずに普段の力を出し切れず、悔しい思いをする子どももいました。それは、これまでに一生懸命走ってきたからこそ、悔しさが込み上げてきたのだと思

います。初めての場所で、最高のパフォーマンスを発揮することの難しさを感じ、現時点でのそれぞれの成長や課題を発見でき、今後にいきる記録会となりました。まだまだ、ランニング日課は続きます。今回の記録会での悔しい思いを励みに努力を重ね、次の駅伝大会では全員が全力を出し切ってほしいと思います。

(栞田)

善意を寄せてくださった方々

- ・生け花 毎月 (長崎様)
- ・菓子贈呈 4月 (澤田グループ)
- ・カタレ親戦招待 6月 (カタレ富山)
- ・カレーポランティア・コーヒー贈呈 8月 (カリカット)
- ・アイスクリーム 7月・10月 (無人ボックスの会 俣本様)
- ・チューリップ球根寄贈 11月 (花と緑の銀行)
- ・歳末お見舞い品 11月 (富山県善意銀行)

《編集後記》

今年も様々な行事が、延期や縮小となりましたが、子どもたちは毎日元気に過ごしています。これも多くの皆さんのご協力、ご支援のおかげです。ありがとうございました。

(木下)